

買場紗綾市(かいばさやいち)

江戸時代中期に「紗綾織」という織物が盛んになったのをきっかけに、天満宮境内で行われていた絹市を「紗綾市」と呼ぶようになりました。その後、明治16年に買場通りに物産売買所が設けられたのを機に同所に場所を移しましたが、この物産売買所を「買場」といいました。現在のメガドンキ付近にできた「下市場」に対して「上市場」とも呼ばれ、織物や日用雑貨の取り引きで賑わったといえます。

本町一丁目の古い町並みの魅力を背景に、この「市」を復活させ観光・経済効果を狙おうと平成8年3月から「買場紗綾市」を開催しています。(現在は、「四辻の齋嘉」で毎月第一土曜日に開催しています。)



修復された「買場ふれあい館」



旧北川織物のレンガ壁

